

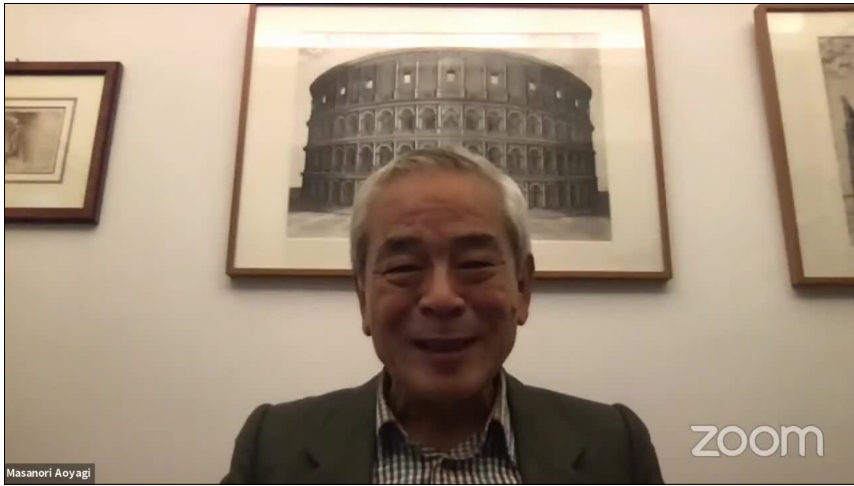
地元から世界へ

岩日タイムズ

発行者
岩瀬日本大学
高等学校
ソーシャルメディア部
大崎 陽生

東京から世界へ発信 青柳正規さんオンライン取材会

10月11日、東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の文化・教育委員である青柳正規さんへの取材会が行われ



Masanori Aoyagi

高校生からの質問に答える青柳正規さん

ました。全国各地の新聞部員が参加し、インタビュアーと交流会を行いました。参加した高校生にとって今回のオンライン

取材は大変貴重な機会となりました。オリンピックは、世界平和を象徴する大きなスポーツイベントです。特に今回の東京五輪は、東日本大震災・福島第一原子力発電所からの復興、という日本から全世界に向けての大きなメッセージがあります。また、性的マイノリティの方々への配慮を含めて、今、社会が直面している課題に対してどう対応していくのか私たちが国民一人一人の意識が問われる場にもなっています。

脱出に成功したのでしょうか。私は、11日のインタビューで青柳さんに「茨城県の魅力は何ですか」と聞いてみました。そこでいただいた答えは次の3つでした。

- 一 土地が広いこと(24位)
- 二 徳川家との縁が深いこと(御三家)
- 三 納豆(コロナに對する免疫力)



岩瀬 (オオサキ)

青柳さんに質問しました

私の地元栃木県は今年のランキングで、何と最下位に沈んでしまいました。そこで先ほど頂いた答えと比較してみました。

- 一 土地(栃)が広いこと(20位)
- 二 徳川家と縁が深い(日光東照宮)
- 三 ?

一と二には違いが見られないものの、三で大きく違ってきました。コロナウイルスへの免疫力というところで注目された

納豆の生産量が日本一という点です。その他、コロナウイルスの免疫力というところで注目された食材の茨城県の生産量は以下の通りです。

- レンコン(日本一)
- ジャガイモ(関東一)
- にんじん(関東2位)
- ※1位 千葉県

右記のように、コロナウイルスに効く食材の生産が多いという好材料がイメーザランキングの順位を押し上げたということができると思

編集後記

ます。一方の栃木県にはそのような食材が見当たりません。それが今回のランキングの一端を占めていると思われ

- 茨城県 42位
- ※昨年まで7年連続最下位
- 栃木県 47位
- ※昨年は43位

「ハロウィーン」という習慣がわが国に定着したのはいつ頃か。日本はクリスマス、バレンタインと外国文化を柔軟に取り入れてきました。今やハロウィーンも違和感がなくなってきました。一方でわが国文化を発信してきたのでしょうか。「もつたいない」はもう古いのかもしれない。「おもてなし」はどうでしょうか。コロナ対策のGOTOキャンペーンの中で改めて見直してみたい文化であると思

ます。(大崎)